

地域に伝わる郷土芸能を 原型のまま継承したい

松本 寛章 さん (35歳)

|| 水沢区佐倉河字東田中 ||



小正月の踊り初めに向けて稽古に打ち込む



まつもと・ひろふみ◎昭
和52年水沢区佐倉河字
東田中生まれ。県立水沢
商業高校の教師。上幅庭
田植踊保存会副会長。
妻と長男、長女、二女、
両親、祖父母の9人家族

雪の舞う中、水沢区佐倉河の一本木会館に、笛と太鼓の音に合わせ、唱歌を歌う声が響く。鎌倉時代から地域に伝わる上幅庭田植踊保存会（高橋孝子庭元・会員30人）で副会長を務める松本寛章さんは、小正月の踊り初めに向け、会員と共に稽古に励んでいる。その年の豊作を祈願し、稲作の所作を舞踊化したものを小正月に踊る田植踊。前庭元を祖父にもつ寛章さんは、幼少の頃から田植踊を見て育った。学校では国語と書道を教え、美術部の顧問も務めている。芸術的才能に長けている寛章さんは、書道のみならず趣味の切り絵もかなりの腕前。郷土芸能以外の文化活動も積極的にを行っている。

「時代の流れとはいえ、郷

土芸能が下火になっていくのがもどかしかった」と持ち前の責任感で立ち上がり、平成20年、友人と共に踊り始めた。月に2、3回の稽古に励み、昨年11月、その努力が認められ、全国青年大会の郷土芸能部門で優秀賞に輝いた。

会員の大半は女性で「戦中は家に残された女性が継承してきた田植踊。その後も専業農家が減る中、女性中心で郷土芸能を守ってきた」と寛章さんは語る。通しの演目時間は約1時間30分。習得するには相当な稽古が必要で、次世代へ継承しようと、子どもを常に稽古場へ連れてくる。

「田植踊をきちんとした形で残したい。そして披露する場がもっとほしい」と郷土芸能の継承に情熱を傾ける。

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 市長年頭あいさつ **地域再生元年**
- 6 特集 **ILCの誘致でまちが変わる**
- 10 新春インタビュー **大谷翔平選手「北の大地で躍動誓う」**
- 14 土地開発公社の解散に向けて
- 16 申告相談が始まります
- 18 25年度市奨学金の申請受け付けを開始します
- 19 市内農産物などの出荷制限表示、出荷・採取の自粛要請について
- 20 結 - ゆい - ~ 30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例~「北股地区振興会」
- 21 市の出来事から
- 22 まちの話題
- 24 子そだて広場
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 25 消費生活相談Q&A
わが家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 26 キラリ人輝く
夢トーク
- 27 クラブ紹介「水沢工業
高校陸上競技部」
ぽんたのつぶやき
- 28 くらしの情報
- 32 奥州遺産
「中善観音」(江刺区)

〈今月の表紙〉



12月25日、正式に北海道日本ハムファイターズに入団が決定した大谷翔平選手（花巻東高校3年・水沢南中学校出身）。写真は、単独インタビューでの一コマ。ふるさとへの思いや、今後の夢について語ってくれました。高校で成し遂げられなかった日本一。「活躍することで、奥州市に恩返しをしたい」と語る大谷選手は「北海道から日本一」と目標を掲げ、新たな舞台での活躍を誓っていました。